

LORC2006年3月スケジュール

7日(火) 2006年度RA(リサーチ・アシスタント)採用面接
時間: 13:00~
会場: 龍谷大学深草学舎紫光館3F LORC資料室

8日(水) 第10回運営会議
時間: 10:00~
会場: 深草学舎 8号館4階会議室
瀬田学舎 1号館理事室(テレビ会議)

18日(土) 地域公共人材像WG・第1班・第4班合同研究会
時間: 15:00~
会場: 龍谷大学深草学舎 紫英館2階 第1共同研究室
(アクセス: <http://www.ryukoku.ac.jp/web/map/fukakusa.html>をご参照ください。)
内容: 地域公共人材像のフレームワークについて

地域公共人材像WGリーダー・第4研究班代表の齋藤文彦助教授(龍谷大学国際文化学部)より本年1月20日開催LORC国際シンポジウム基調講演者ミドルセックス大学スティーブン・サイレット教授の講演内容をもとに、先進国と途上国のリンクを構築するための話題提供及び発表をして頂きます。

研究班及びWG活動報告

第1班RA 辻本 乃理子

東京農工大学COEとLORCとの三重県における共同研究プロジェクト、「新しい時代の地域づくりのあり方」に関する検討部会協議が終了し、1月27日(金)三重県総合企画局の担当者より報告を受けました。これまでLORCは、三重県に多者協議型の協働を実現するためのシステムづくりと地域包括型予算制度の創設をアドバイスし、三重県内の市町村に対しては、英国の地域戦略パートナーシップによる地域再生の紹介、地域戦略パートナーシップによる地域づくりをすすめるにあたって期待される効果および課題等についてアドバイスを行ってまいりました。その結果、新たな組織と予算配分制度が創設されることになりましたが、当初の期待していた制度の創設には至りませんでした。今後の活動については、現在検討中です。

次回研究会は3月18日(土)15:00より龍谷大学深草学舎紫英館第1共同研究室にて、第4班、地域公共人材像WGとの合同研究会を開催いたします。内容は「地域公共人材像のフレームワークについて」です。

第2班RA 田村 瞳

2班の今年度の研究会(活動)は、1月実施分をもって終了した。ただし、この一年間議論してきた公共性と公益のかかわりにおける公・共・私の各セクターの図式化においては、議論の集約まで至らず、MLを通じて

意見交換しながらまとめていくことが前回の研究会で確認されている。

アイルランドで留学されている2班班長の土山希美枝先生(龍大)がこの3月で戻って来られます。土山先生、お帰りなさい!!

第3班RA 田村 瞳

第3班は現在実質的な研究活動は行っておりませんが、昨年度から継続の活動が多少残っておりますので、昨年度担当RAの田村より報告を致します。

今月は特に報告する活動はありません。

第4班RA 新井 健一郎

2月中は、大林稔先生・齋藤文彦先生がガーナを訪問し、政府機関や研究組織において同国の分権化の動向を調査するとともに、次年度以降の研究協力体制の整備を行った。また、3月にはLakshman先生が進行中の研究をまとめ、さらには、2006年度、2007年度の現地での活動にむけた準備を整える予定としている。これまでに進めてきたmini-surveyは、南アフリカから報告書の初稿が到着したのをはじめとし、各国ともに順調に進行しており、来年度早々にも成果が出揃うものと期待される。なお、3月18日に第1班および地域公共人材像WGと合同で、研究会を催す。

特定研究WG担当RA 朴 重信

去る2月20日に「高島市総合計画策定に係る市民懇談会」と「高島市・龍谷大学LORC協働プロジェクトの事前協議会」が行われました。

高島市総合計画策定に係る市民懇談会では、「地域コミュニティの役割」をテーマに3時間にわたって議論が交わされました。市民代表10人、高島市の企画部自治共同参画課の職員ら6人、そして龍谷大学LORCの広原先生と朴の合わせて18名が参加しました。高島市の各地域が抱えている様々な問題と現状を住民自ら直接議論あるいは提議することによって、高島市総合計画策定の課題としてまとめることが目的でしたが、地元市民の生の声を聞き出すことが出来、大変貴重な場となりました。

引き続きマキノまちづくりセンターで開催された「高島市・龍谷大学LORC協働プロジェクトの事前協議会」には、高島市の企画部自治共同参画課の職員1人、マキノまちづくりセンター4人、龍谷大学LORCの広原先生と朴の2人の合計7人が参加しました。4月から本格的に動き出す高島市・龍谷大学LORC協働プロジェクトを遂行するため、高島市役所、マキノまちづくりセンター、そして龍谷大学LORCのそれぞれの役割分担について協議しました。高島市役所は協働プロジェクトの全体を支援する役割とし、特に、プロジェクト予算の確保、会場の提供、職員への派遣、資料づくりなどを担当し、マキノまちづくりセンターは、市内6地域のNPO団体

及び住民らに協働プロジェクトの紹介と参加を呼びかける役割を担当することになりました。龍谷大学LORCは、高島市役所とマキノまちづくりセンター及び地域NPOの間のコーディネーターとして、研究プログラムに関する市民・職員研修及び講演会、「プロジェクト研究会」の運営、ワークショップ、シンポジウム、に関して積極的に取り組む予定です。

3月14日(火)の夕方には、2回目の「高島市総合計画策定に係る市民懇談会」が予定されています。

教育・研修システムWG： RA 田村 瞳

熊本市における研修プログラム試行として、まず2月1日の午前と午後に分けて座学講習での幹部研修(全管理職[課長以上]対象)を実施した。続いて、2月13日-15日の午後の3日間にかけて、係長級の市職員(30名程度)とNPO・自治会の方々(12名程度)を対象とした協働型研修を、ワークショップ形式で集中的に実施した(各班にファシリテーターを1名ずつ配置)。「子ども」と「高齢者」という2つのテーマを設定

し、各テーマに3班ずつ(各班6~7名)計6つの班に分かれて実施した。1日目前半に、広原盛明先生(龍谷大学)の講演「協働のまちづくりを考える~住民と行政のパートナーシップを通して~」を実施し、1日目後半から2日目にかけてワークショップを行った。3日目は、はじめに3日間のまとめを行い、それを踏まえて各班10分程度の合同発表会が行われた。今回の一連の研修は、現地の住民ディレクターによるビデオ撮りを実施しており、最終的に、1時間程度のビデオとして編集を行う予定。

LORC Information

LORCウェブサイトがリニューアルしました

先月末よりLORCのウェブサイトをリニューアルしました。これまでの2つのサイト(HTML版とFlash版)をHTML版に統合しこれまでよりもすっきりとしたデザインに変更することで、より多くの皆様にご覧頂けるように工夫しました。まだ完全オープンには至ってありませんが、是非一度ご覧になって下さい(<http://lorc.ryukoku.ac.jp/>)。

LORC資料室文献紹介

LORC支援室の蔵書をより分かりやすく管理するべく、現在データベース化を進めています。準備が出来次第ウェブサイト上からアクセスできるように作業しますので、今しばらくお待ち下さい。

皆様からの有益な文献・映像資料などの情報をお待ちしております。ご協力宜しくお願い致します。

- 佐々木毅、金泰昌(編)『公共哲学1 公と私思想史』(東京大学出版会、2001)
- 佐々木毅、金泰昌(編)『公共哲学2 公と私の社会科学』(東京大学出版会、2001)
- 佐々木毅、金泰昌(編)『公共哲学4 欧米における公と私』(東京大学出版会、2002)
- 佐々木毅、金泰昌(編)『公共哲学5 国家と人間と公共性』(東京大学出版会、2002)
- 佐々木毅、金泰昌(編)『公共哲学6 経済からみた公私問題』(東京大学出版会、2002)

雑誌の情報は以下のサイトへ!

ガバナンス

http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html

日経グローバル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

LORC研究員のひとこと

今月は第1班研究員の園田正彦さんです。

三井物産戦略研究所 国土・地域振興室室長 園田正彦氏

商社のシンクタンクで、主に地域振興、研究だけではなくアクションを起こす仕事をしています。地域の持続性確保のためには産業の創出が重要であるという視点から、いかに地域に経済を起こしていくかということを考えて活動してきました。現在の東京一極集中はあまりにもすさまじく、すべての資金、情報も集中しています。市民は連帯を組まなければこの力に勝てません。地域の有志の連帯で産業づくりをし、その中に企業も組み込んでいくためのしかけとして協会や連携を設立し、現在

8つの団体を立ち上げました。将来25まで立ち上げようと考えています。

参議院議員鈴木寛氏のHPインタビュー番組「Suzukan.Tv Studio635」に2月15日に出演し、現在の活動等を紹介していますのでご参照ください。

<http://www.suzukan.tv/vod1.html>

某センター長が私を紹介される時、時々「いやあ、土山さんは実は漫画にスゴイ詳しいんですよ～」と付け加えてくださるので、ご承知の方もおられるかと思いますが、私は漫画好きです。マニア、あるいはオタクと呼ばれても構いません。姉妹は「何か足りないものはない? 漫画読みたいんじゃない?」としばしば心配してくれます。ただ、よく誤解されますが、アニメーション、とくにテレビアニメにはあまり執着しません。理由はいろいろありますが、とにかく、漫画とアニメは別なんです。

そんな私がこちらでハマったテレビ番組があります。しかもアニメ。それは、Fairly OddParents。子ども向けCATVチャンネル Nickelodeon で放映される米国製アニメーションです。シンデレラに出てくる守護妖精を Fairly God Mother などと言いますが、それをもじって、「miserableなある子どもの願いを叶える妖精」Fairly GodParentsである Cosmo と Wanda が、10歳の男の子 Timmy のもとに現れて起こすドタバタコメディです。ハマると果てしない私の本領が発揮されてしまい、DVDレコーダはこれを撮るために買ったようなものです。番組チェックとタイマー録画は言うに及ばず、Webでシリーズ内容のチェックも。ネット上の参加型百科事典 Wikipedia にもかなり詳しいガイドがあるんです、これが。人生で最も深く見たテレビ番組と言ってももはや過言ではありません。

なぜそんなにハマったのか? 意地悪なベビーシッターや小学校のボスにいじめられる Timmy と、あるルールの範囲内で「何でも願いを叶える」GodParents との毎日が起こすドタバタコメディといえは...はっ、「ドラえもん」...? いえいえ、それはおいておきましょう。当初調子の悪かったテレビでも映っていたチャンネルで、朝起きる時間にちょうどやっていたんです。30分で2話構成なので、起きぬけにぼーっと英語を聞くのにちょうどいい長さでした。新作なのに、テレビシリーズのトムとジェリーなど、昔懐かしい子ども向けアニメを思い

出させる演出や描画もツボを刺激します。「お下劣」なジョークも軽めで、もういい年齢になっていたせいか「クレヨンしんちゃん」的ギャグ世界にはちょっとなじめなかった私としてはありがたいです。友人たちや憧れの女の子、実体化するコミックヒーロー、奇天烈な小学校の先生など脇役も魅力的。軽めながらも政治風刺、日本のアニメや漫画のパロディ、さらに Fairly つながりかアイランドねたなどが時々入り、私のマニア心を刺激します。おしつけがましくならない程度に友情や愛情がモチーフになるのも歓迎です。1時間特別番組のミュージカルは、こうしたいところを集めていて、大のお気に入り。子どもが世界を支配して、ピサの斜塔がピザの斜塔に、Mt. Fuji が Mt. Fudge (甘いお菓子) になり、UN本部が FUN本部になるなんて大受けです。Timmy はその世界の大統領になりますが「フロリダはまだ投票中」です。

「毎日クリスマスがいい!」とか、「(身長制限のあるジェットコースターに乗りたくて)いますぐ16歳に!」とか、「コミックヒーローを現実に連れてきて!」とか、いかにも子どもの願いにありそうなことが喜劇になる他愛のない「おとぎ話」なのですが、かなり楽しんでます。実は、冷静にみると Timmy はそんなに miserable でもありません。学校の出来は悪いし体も大きくないですが、いい友達もいるし、彼をおいて二人で出かけてしまおうとはいえ両親とも愛され親子で、Cosmo と Wanda にも愛されてます。彼自身、なかなか勇気も自立心もあり、リーダーシップを発揮することも。ひょっとしたら、Timmy のような子が「Fairly GodParents に守護される miserable な子」であるような社会がある、ということが、「おとぎ話」要素の最たるものかもしれません。

アイランドにも日本にも同好の士がいないことが残念ですが、せめて日本に持って帰ろうと、Webで手に入れたタイトル一覧表と照らし合わせつつ録画にはげんでいたにもかかわらず...なんと、買って二ヶ月でDVDレコーダが壊れてしまいました。入門機ながらもそれなり

のものをとって買った機械なのに!ピンチ! つづく...かな?

編集後記

ペーパードライバーを脱却すべく、ペーパードライバー専門の教習を受けました。視野を広くし、右左折では自分が次にどの車線道に向かって走るのか即座に判断して進行方向を目指して走ることに、そして思い切りの大切をアドバイスされ、自分が苦手なことばかりだなあと感じました。(N) 寒暖の差が激しい日が続きますが、ご自愛ください。(K) 最近、岩盤浴にはまっています(^o^)/自律神経を整える効果があり、冷え性解消やストレス発散には最適だそうです。是非、一度お試しください。(H) 自分の本業のため、先月に約3週間韓国へ調査に行ってきた。皆さんにご迷惑をおかけしまして申し訳ございません。調査から戻って来てもう春かな～と感じます。春らしく様々なことに挑戦したいと思いません。少しずつですが春の訪れが感じられるようになりましてね。でも風邪はまだまだ流行っているようですので、皆様お体ご自愛下さい。(T)